

<ギランバレー症候群>

今回は難病の中でも発症率が高いギランバレー症候群についてご紹介します。ギランバレー症候群は、脳や脊髄などの中枢神経ではなく、運動や感覚を支配している末梢神経が障害される病気です。病気が起こる原因は完全には解明されていませんが、自分の末梢神経をリンパ球と抗体が、外部から侵入したウイルスなどと間違えて攻撃してしまう自己免疫によるものだと考えられています。発症してから2~4 週くらいに1 番症状が重い状態となります。症状の程度は個人差がありますが、手足に力が入らないという軽度なものから、全身の筋肉が動かず寝たきりになることや呼吸さえもできなくなるという重度なものまであります。こういった症状もおおむね1 ヶ月を過ぎると回復に向かい、6~12 ヶ月ほどで約8 割の患者さんが完治しています。しかし、残念ながら2 割の方は後遺症が残ったり、中には亡くられる方もいらっしゃいます。重症化をなるべく防ぐためには、症状がピークを迎える1 ヶ月間の適切な治療がとても重要です。回復に向かう過程ではリハビリも大切と言われており、リハビリはその時の症状の程度によっても違いますが、進行している急性期にも、関節が固まらないようにすることや1 年以上続く慢性的な症状においてもリハビリは必要とされています。ギランバレー症候群は予後が良いと考えられていますが、患者様の状態によっては1~2 年を超える長期的なケアが機能の回復につながります。シビレや力が入らないなどの症状が出たら早めにお近くの医療機関で受診する事をお勧めします。